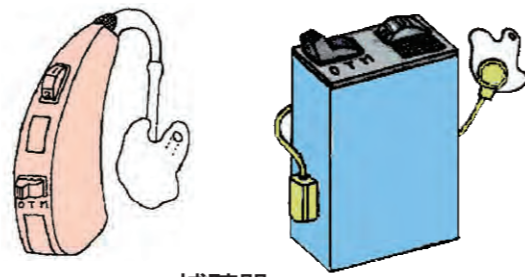


聴覚障害者とのコミュニケーション

聴覚障害者は、聞こえ方やこれまでの生活によって、それぞれコミュニケーション方法を身につけています。コミュニケーションには、音声での会話、読話、筆談、手話などさまざまな方法があります。多くの聴覚障害者は、どれか一つの方法だけを使うのではなく、いくつかの方法を相手や場面に応じて組み合わせて使っています。聴覚障害のある方と出会ったら、まず、どのような方法でコミュニケーションを取ればよいかたずねてください。きっとあなたとそこに合う方法を教えてくれるはずですよ。

補聴器

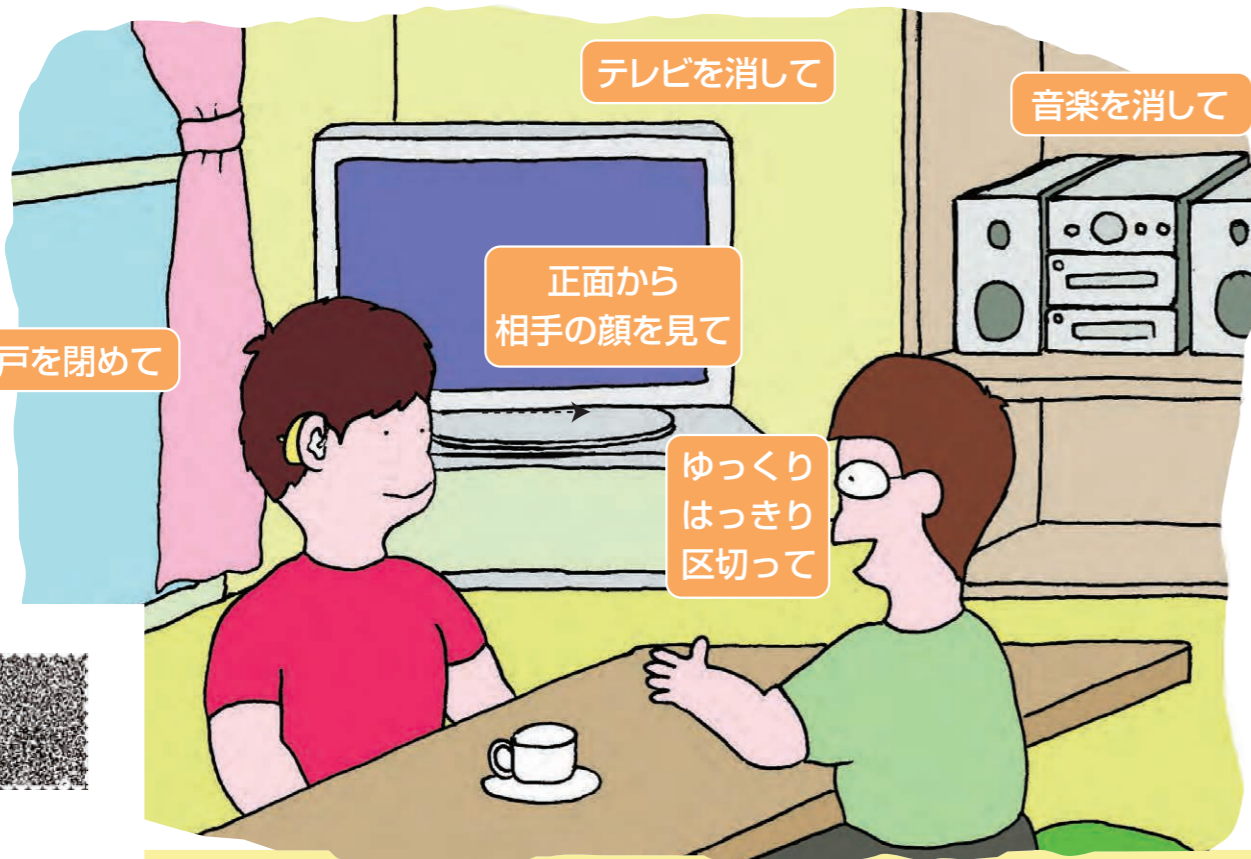
補聴器は基本的に音を大きくする器械です。音を感じる器官（内耳）が障害されている方も多く、補聴器で音を大きくしても会話がきちんと聞き取れるとは限りません。その理由は障害の程度によって異なりますが、聴覚障害のある方の多くが音だけでなく言葉が聞こえづらくなるからです。補聴器の使用にあたっては、相手が聞き取りやすい話し方の工夫が必要です。



補聴器

話し方のポイント

- ◎普通の大きさの声で、ゆっくりめに、文節で区切って話しましょう。
区切り方の例：今晚／正男さんが／久し振りに／来ますよ。
- ◎お互いの顔を見ながら話しましょう。
- ◎周囲の雑音を少なくしましょう。



読話

補聴器や手話に併用して、相手の口の動きを手がかりに話していることを理解する方法です。話題の前後関係、話されている場面、相手に関する知識など、いろいろな手がかりから話された言葉を推測します。口の形や表情が見えやすいように、顔を相手に向けて、おおげさにならない程度にはっきりとした口の動きで話すように心がけます。



筆談

伝えたいことを文字や図に書いてやり取りする方法です。筆談は時間がかかりますが、情報を伝えるのに確実な方法です。長い文は前後の関係が複雑になり、理解しにくくなります。短い文で見やすく、わかりやすく書くようにしましょう。

悪い例

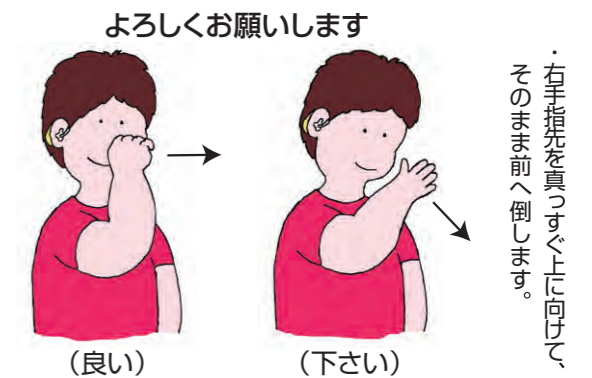
チケットの申込みは15日から始まりますが、申込み方法については5日に発表されますので、5日以降に当店で問い合わせてください。

良い例

チケットの申込み→15日開始
※申込み方法は、5日以降に問い合わせる
問い合わせ先：〇〇株式会社
ファックス 〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

手話

手話は手・指の動き、表情や動作などによって表現する視覚的な言語です。日本語での会話表現を単に置き換えたものではなく、手話独自の文法構造があります。聴覚障害のある方の多くは、相手に応じてコミュニケーション方法を使い分けているため「手話ができないから」とコミュニケーションを取ることがあきらめないようにしたいものです。



その他

表情、身振り、空書、指文字、絵など様々あります。空書とは空中にゆっくりと文字を書く方法です。

指文字とは、日本語の50音を手指の形で示す方法です。

